



13_「白石民話の会」の鈴木智恵子会長による講話(専念寺) 14_駅前に出来上がった映画館(旧光影堂写真館) 15_孫太郎虫をキャラクター化した「まーご」は子どもに大人気 16_学生たちの朗読劇に耳を傾ける市民の皆さん 17_白石の至る所で撮影された映画「しろい☆わんだーらんど」(旧光影堂写真館) 18_次々と飛び出す映像に子どもたちはくぎ付けとなった

01_戦国ブームと白石城の入館者数の推移などを展示(壽丸屋敷) 02_旧相馬屋家具店は2日間、臨時の新聞社に変身した 03_テーマブックでメディアフェスタがスタート 04_孫太郎虫の史実を展示(専念寺本堂) 05_「日新月報社」の学生たちは、カメラを手にさまざまな白石を映し出した 06_「水」をテーマにした展示(壽丸屋敷)。「川干」は「白石ならではの行事で観光資源になる」と提案

学生たちは、市民の皆さんと協力し、若い視点で、私たちには想像も付かない、「白石の魅力」を映し出してくれた

2日間の展示・発表であったが、学生たちは、市民の皆さんと協力し、若い視点で、私たちには想像も付かない、「白石の魅力」を映し出してくれた。

専念寺では、「ことば」を用いて白石を伝えようと、市内の小中学生から募集した詩や白石温麺を題材にした朗読劇などを、方言を交えながら発表した。本堂には、孫太郎虫の史実などを展示。アカデミックな視点から白石の史実に迫った。

壽丸屋敷では、城や水、アニメ、片倉小十郎、神社などをテーマに調べ上げた白石を、博物館のように展示。また、全国のゆるキャラを研究し、白石のゆるキャラクターを提案した。

旧まるいち洋品店は、一夜限りのライブハウスに変身。昨年にはない新しい試みとなった。中央公民館では、片倉小十郎や白石温麺、こけし、水などをテーマに、白石を衣装で表現する「白石コスプレ・ファッションショー」を開催。また、「みんなのスマイル秋覚彩」と題したコンサートには、白石高校合唱部や箏曲部なども参加し、音楽を通して観客に笑顔を届けた。

また、旧相馬屋家具店は、臨時の新聞社「日新月報社」に様変わり。雑誌「和一緒」は、白石のまちなみや伝統、職人などさまざまな視点から「白石の魅力」を伝える作品となった。そして、当日発行した「日新月報」では、このイベントを特集した。

今回のテーマにある「プリズム」とは、透明な媒質の多面体で、光を分散させるもの。白石はいろいろな色彩に魅力を持っているが、それが結果としてグレーとなってしまっているのではないかと。「学生」という透明な媒体を通して白石を映し出し、白石の持っている魅力を輝かせたい。そんな思いがイベントには込められている。学生たちは9つのゼミに分かれ白石を映し出した。駅前の旧光影堂写真館は2日間、特設の映画館に変身した。そこでは、学生たちが白石を舞台にした映画やCMなどを上映した。特にCMは、「神石しろいし」にまつわる伝説と「恋愛」を融合させることで、新しい名所を生み出そうと試みたものである。

学生に光が白石を魅せる

19_学生たちも白石に興味を持ってくれた 20_コスプレファッションショーでは、東中3年の國分華さんのデザインによる「小十郎姫」の衣装が発表された 21_白石をテーマに学生たちが衣装をデザイン 22_すまいるひろばは学生たちであふれた 23_24_「みんなのスマイル秋覚彩」と題したコンサートに、白石高校の合唱部と箏曲部が登場した

07_学生がまちを歩く姿が多く見られた 08_ゆるキャラみゆ〜じあむの会場(壽丸屋敷) 09_「緑」をテーマにした展示(壽丸屋敷)。ガラス戸に張られた写真が、何気ない風景を特別なものに変えた 10_一夜限りのライブハウス(旧まるいち洋品店) 11_日本全国のゆるキャラを調べ上げた(壽丸屋敷) 12_「白石のシンボルである白石城も見る角度でイメージが変わる」と説明(壽丸屋敷)

